

## ◆理事会・評議員会

報告担当者 代表理事 松倉典子

### 【報告概要】

精神疾患及び精神障害の予防並びに治療に係る研究に関する活動と、障害者や高齢者の社会生活全般に関する支援活動を行うとともに、心の健康を普遍化して偏見をなくした心豊かな社会づくりを目指すため、適正な法人の運営を行った。

### 【報告項目】

- ①理事会の開催
- ②定時評議員会・臨時評議員会の開催

### 【報告内容】

#### ①理事会の開催

理事会を2回開催した。

	開催日	議案
第1回理事会	令和5年 6月12日	令和4年度事業報告について承認を受ける件 令和4年度決算報告について承認を受ける件 令和5年度定時評議員会の招集について承認を受ける件
第2回理事会	令和6年 3月11日	令和6年度事業計画（案）について承認を受ける件 令和6年度収支予算（案）について承認を受ける件 令和5年度補正予算（案）について承認を受ける件 令和6年度役員等関連取引について承認を受ける件 令和5年度第1回臨時評議員会の招集について承認を受ける件

#### ②定時評議員会・臨時評議員会の開催

定時評議員会の他、臨時評議員会を1回開催した。

	開催日	議案
定時評議員会	令和5年 6月27日	令和4年度事業報告について承認を受ける件 令和4年度決算報告について承認を受ける件
第1回 臨時評議員会	令和6年 3月26日	令和6年度事業計画（案）について承認を受ける件 令和6年度収支予算（案）について承認を受ける件 令和5年度補正予算（案）について承認を受ける件

## ◆地域生活支援センター青明舎

報告担当者 センター長 森富茂子

### 【報告概要】

障害者及び家族からの来所相談・電話相談・訪問相談を行い、生活全般・医療・日常生活上の悩み事等に対し、必要な情報の提供及び助言、解決を講じ、関わる機関との連絡調整やケース検討を行うことで解決に努めた。医療と連携し、入院・退院時に関わって、障害者の体調維持支援を行った。

新型コロナウイルス5類移行により、以前の活動に戻ることを目指して行事・プログラム実施を計画し提供した。

八戸市は障がい者相談支援事業者連絡会議の運営に携わり、新郷村は新郷村障害者地域自立支援協議会委員、階上町は階上町障害者自立支援協議会委員として、地域の現状を伝える役割を担い福祉計画策定に助言した。

### 【報告項目】

- ①相談支援事業
- ②地域活動支援センター I 型事業
- ③指定特定相談支援事業（サービス利用支援・継続利用支援）
- ④指定一般相談支援事業（令和元年11月1日より休止）
- ⑤職員のサービスの質の向上を目指した事業所内研修の実施

### 【報告内容】

#### ①相談支援事業

##### 1) 相談支援事業

訪問、来所相談、電話相談にて以下の相談に応じた。

- ・福祉サービスの利用援助に関すること
- ・社会資源を活用するための支援に関すること
- ・社会生活力を高めるための支援に関すること
- ・権利擁護のために必要な援助に関すること
- ・専門機関の紹介に関すること

前年度に比べ開所日が増えていること・コロナ感染防止のための閉館対応時も同行支援等は実施していたことから、来所相談数・同行数が増え、電話相談数が減っている。

不安が多い利用者様が安心な地域生活の継続が可能となるように、同行支援や関係機関との連絡調整、個別ケア会議を実施したり、地域の関連機関のケア会議に参加した。委託市町村には毎月実績報告書を提出し、状況把握に役立て必要時に連携した。

月	行動報告	
随時	支援内容	年間延べ利用件数
	訪問	178件
	来所相談	1753件
	同行	60件
	電話相談	814件
	関係機関との連絡調整	2551件
	個別ケア会議	10件
訪問、来所、同行、電話相談等の対応		

2) 相談支援機能強化事業

相談支援機能の強化を図るため、一般的な相談支援事業に加え、相談支援事業が適切かつ円滑に実施されるよう、関係機関に専門的指導、助言を行った。

月	行動報告
随時	必要に応じ、相談支援事業者に対する専門的指導、助言を行う

令和5年度は、6件の特定相談支援事業所に助言している。

3) 地域自立支援協議会（個別ケア会議）への参加

八戸市障がい者相談支援事業者連絡会議は、集合型で研修会を開催。

新郷村は、新郷村障害者地域自立支援協議会委員として協議会に参加。

月	行動報告
随時	八戸市障がい者相談支援事業者連絡会議事務局会議
令和5年 10月12日	八戸市障がい者相談支援事業者連絡会議 第1回「サービス等利用計画の作成に関する悩み事・困りごとについて」
令和5年12月 令和6年 2月	新郷村障害者地域自立支援協議会

4) 入居等支援事業

賃貸契約による一般住居を希望しているが保証人がいない等の理由により入居が困難な方、各市町村が運営する住宅入居者に、必要な調整等の支援を行った。

月	行動報告
随時	関係機関との連絡・調整、地域生活の支援、緊急時の対応・支援 ※登録者：11名 ※年間延べ利用件数：108件

利用登録者の増減は無いが、利用件数が前年度比23件増となっている。

5) 成年後見制度利用支援事業

成年後見制度の利用が認められる知的障害者又は精神障害者に対し、申立て等について、各市町村と連携を取りながら支援する。

②地域活動支援センター I 型事業

1) プログラム活動の企画・運営

活動室を開放し、社会生活に必要なスキルの維持・向上を図るプログラムを実施。

月	行動報告
4月	年間活動スケジュールの作成
毎月	プログラム活動月間予定表の作成
通年	活動室の開放、メンテナンス

2) 余暇活動（行事、イベント）の企画・運営

生活のしづらさを感じやすい障害者や、引きこもり等、既存の社会資源を利用できない層の相談窓口となり、障害者と地域社会の交流を図った。

行事・イベントは感染防止を徹底して実施。

月	行動報告	参加数
4月	花見 プラバンキーホルダー作り	各4名
5月	空き瓶リメイク	4名
6月	タイダイ染め	5名
7月	バスボール作り	4名
8月	ペン立て作り	4名
9月	グループホームと合同でイオンショッピング	7名 (清明舎2名)
10月	ストレッチ	2名
11月	ハーバリウム作り	4名
12月	こころすこやか財団冬まつり	—
1月	くるみボタン作り	4名
2月	ラピアショッピング	0名
3月	運動とごはん	5名

3) 障害者サポーター養成、障害に対する理解促進を図る為の普及啓発活動

医療・福祉及び地域の社会的基盤との連携強化のための調整、障害や精神疾患に対する理解促進を図る為の普及啓発活動の事業を実施した。

月	行動報告
随時	年間活動スケジュールの作成、障害者サポーター登録、サポーターデータ管理表作成
令和6年 2月9日	八戸学院大学でサポーター養成講座開催 短期大学部 介護福祉学科1年生 33名 幼稚保育学科2年生 1名 健康医療学部 人間健康学科2年生 5名 参加者合計 39名

4) ライフサポート

日常生活の支援、日常的な相談への対応、日常生活の質の向上と問題解決のための援助及び情報提供を実施。

月	行動報告	
4月	定期訪問者 訪問スケジュール作成	
随時	訪問、来所、同行、電話相談等の対応、定期訪問	
通年	入浴、洗濯、インターネット、食事作り、緊急時対応（オンコール）	
	支援内容	年間延べ利用件数
	入浴	177件
	洗濯	78件
	インターネット	143件
	食事作り	0件
夜間電話	241件	

決まった利用者様が入浴・洗濯支援を利用するので、コロナ禍と件数は大きく変化見られなかった。活動室閉館日が少なかったことで、来所してインターネットを利用する利用者様が前年に比べて増えている。調理プログラムは実施していない。

③指定特定相談支援事業

サービス利用計画の作成、事業者との連絡調整及びサービス等の利用状況のモニタリングを行い、利用者が安心して障害福祉サービスが受けられ、目標に近づくよう支援した。

新規登録者21名

月	行動報告
随時	相談支援・サービス等利用計画作成・サービス担当者会議実施 モニタリング実施・作成料請求業務

<登録者数・実績表>

月	新規（利用支援）	継続（継続支援）	新規登録者数	登録解除者数
4月	14名	21名	6名	0名
5月	3名	36名	1名	2名
6月	9名	24名	1名	0名
7月	4名	33名	0名	2名
8月	4名	31名	0名	4名
9月	9名	24名	3名	4名
10月	12名	22名	2名	0名
11月	5名	36名	1名	0名
12月	3名	21名	0名	0名
1月	8名	14名	3名	0名
2月	16名	28名	2名	2名
3月	7名	30名	2名	0名
合計	94名	320名	21名	14名

④指定一般相談支援事業

365日・24時間で支援する体制を維持することが難しくなったことが理由で、令和元年11月1日より事業休止としている。

1) 地域移行支援

月	行動報告
随時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住居確保その他の地域生活に移行するための支援に関する相談</li> <li>・地域生活への移行のための外出時の同行</li> <li>・体験宿泊</li> <li>・地域移行支援計画の作成</li> </ul>

2) 地域定着支援

居宅において单身等の状況において生活する障害者等に対して、当該障害者等との常時の連絡体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態等において相談に応じる。

⑤職員のサービスの質の向上を目指した事業所内研修の実施

月	行動計画
令和5年 5月	自立支援医療制度と重度心身障害者
令和5年10月	睡眠について～セルフケア～

地域生活支援センター青明舎 令和5年度市町村別地域活動支援事業利用実績数(名)

令和6年3月31日現在

	身体		知的		精神		発達		その他		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
八戸市	2	0	5	5	41	35	2	3	0	0	50	43
	2		10		76		5		0		93	
おいらせ町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0		0		0		0		0		0	
南部町	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	2
	1		0		2		0		0		3	
五戸町	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	0		0		0		1		0		1	
階上町	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0
	1		0		1		0		0		2	
田子町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0		0		0		0		0		0	
新郷村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0		0		0		0		0		0	
その他	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0
	0		0		2		0		0		2	
合計	3	1	5	5	45	36	3	3	0	0	54	44
	4		10		81		6		0		101	

地域生活支援センター青明舎 市町村別地域活動支援事業登録者数(名)

令和6年3月31日現在

	身体		知的		精神		発達 他		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
八戸市	3	0	8	5	53	52	2	7	66	64
	3		13		105		9		130	
おいらせ町	0	0	0	0	1	2	0	1	1	3
	0		0		3		1		4	
南部町	0	1	0	0	2	1	0	0	2	2
	1		0		3		0		4	
五戸町	0	0	0	0	2	0	1	0	3	0
	0		0		2		1		3	
階上町	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0
	1		0		1		0		2	
田子町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0		0		0		0		0	
新郷村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0		0		0		0		0	
合計	4	1	8	5	59	55	3	8	74	69
	5		13		114		11		143	

## ◆障害者就業・生活支援センターみさわ

報告担当者 センター長 坂下優子

### 【報告概要】

就職を希望する障害者、職場不適合により離職した障害者や離職のおそれがある在職中の障害者に対し、障害者就業・生活支援センターにおいて、就業及びこれに伴う日常生活、社会生活上の支援を行うことにより、障害者の職業生活における自立を図ることを目的とした。また、生活支援担当職員が支援対象者の家庭等や職場を訪問し、生活上の相談等に応じ、就業及びこれに伴う日常生活又は社会生活に必要な支援を行うことにより、障害者の就労継続を図ることを目的として運営した。令和5年度はコロナウイルスの流行状況を注視しながら、なるべく通常の支援体制を維持できるよう工夫して業務を行った。

### 【報告項目】

- ①雇用安定等事業
- ②生活支援等事業

### 【報告内容】

#### ①雇用安定事業

##### 1) 障害者の就業支援

就職に向けた準備支援（職業準備訓練、職場実習のあっせん）、求職活動の支援、職場定着支援、事業所に対する障害者の障害特性を踏まえた雇用管理に関する助言、関係機関との連携、調整を行った。

月	行動報告
通年	職場実習場所の開拓、確保、職場実習の実施、事業所への説明、利用者への説明、短期職場実習制度の利用、求職活動支援、職場定着支援

##### 2) 障害者の就業支援からみる生活支援 ※②生活支援等事業と連動

生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言、地域生活、生活設計に関する助言、関係機関との連携、調整を行った。

月	行動報告
通年	家庭・職場・実習先への訪問巡回、職場定着支援、利用登録の意志確認、在職者交流会

##### 3) 目標件数の達成状況

目標件数設定項目	令和5年度 目標値	令和5年度 達成値	達成率
職業準備訓練及び職場実習のあっせん件数	20件	20件	100%
就職件数	22件	28件	127%

##### 4) 各関係機関との連携、情報交換、報告

事業が円滑かつ効果的に行われるよう関係機関と連絡を密にし、連携体制を構築した。

月	行動報告
令和5年 4月28日	第1回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加
5月27日	八戸の医療的ケアを考える会 講師として参加
6月10日	第1回在職者交流会
6月16日	障害者就業・生活支援センターみさわ事業連絡会議実施
6月16日	第1回職業センター・3ハローワークとの定例会開催

6月16日	上十三就労支援連絡会総会参加
6月20日 ～22日	職場体験年間プログラム①十和田市農家
6月22日	HW野辺地主催新規高等学校学卒予定者職業紹介連絡会議
7月12日 ～14日	職場体験年間プログラム②（セブンイレブン三沢中央町4丁目店）
7月21日	農福連携推進講演会参加
7月21日	キャリア教育講座（七戸養護学校）
7月21日	進路講話会（青森第二高等養護学校）
7月25日～	四者面談（七戸養護学校）参加
7月26日～	四者面談（青森第二高等養護学校）参加
8月25日	第2回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加
8月25日	労働局主催青森県経験交流会議参加
8月29日	職場体験年間プログラム③（育英管財：三沢航空科学館）
9月 2日	第2回在職者交流会
9月 7日	企業座談会
10月25日 ～27日	職場体験年間プログラム④（小さな森こども園）
10月 2日 ～10月17日	ステップアップ講座開催
10月 2日	ピアサポート活動（ステップアップ講座と共催）
11月 1日	第2回職業センター・野辺地ハローワークとの定例会開催
11月 2日	第2回職業センター・十和田ハローワーク・三沢ハローワークとの定例会開催
10月27日	就労支援連絡会情報共有会議
11月19日	第3回在職者交流会開催
11月26日	第4回在職者交流会開催
12月 6日	上北地域農福連携現地検討会参加
12月 8日	第3回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加
令和6年 1月11日	上北地区特別支援教育連携協議会第2回情報交流会
1月30日	労働局はじめての障害者雇用オンライン説明会参加
1月31日	上北地域農福連携会議出席
2月 9日	第4回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加
2月10日	上十三障がい者就労支援セミナー後援参加
3月随時	移行支援会議（七戸養護学校、青森第二高等養護学校）参加
適宜	特別支援学校生徒、企業実習の巡回協力実施 特別支援学校生徒反登録面談 ハローワークとのチーム支援会議実施 地域自立支援協議会（三沢市・十和田市）参加 県内各ナカボツ事業連絡会議への参加（5センター）



5) 啓発活動

月	行動報告
令和6年 3月	障がい者雇用モデル事例集発行（青森県労政・能力開発課共催）

6) スタッフ教育・人材育成

コロナウイルスの影響で多くの研修がオンライン開催。

月	行動報告
令和5年 11月27日	北海道・東北ブロック経験交流会議（オンライン開催）
12月22日	三沢市障害者支援専門性向上研修（オンライン開催）
令和6年 2月22日	第10回ナカポツ全国フォーラム
2月28日	定着支援地域連携モデルに係る事業報告セミナー（オンライン開催）

②生活支援等事業

1) 日常生活の自己管理に関する指導・助言

月	行動報告
随時	生活習慣の形成や日常生活の自己管理のための助言 健康管理や金銭管理等に関する指導・助言 保健医療機関、生活支援サービス利用の支援を実施

2) 地域生活に関する指導・助言

月	行動報告
随時	住居の確保や年金などの申請に関して助言 活用できる福祉サービスの利用調整を実施 就業後や休日における余暇活動について助言

3) 生活設計に関する指導・助言

月	行動報告
随時	長期的な視野での生活設計等について指導・助言 本人の自己選択・自己決定に関する助言

4) 家族、知人が関係する課題が表出している時は解決に必要な調整支援を行った。

5) その他就業及びこれに伴う日常生活又は社会生活に必要な支援を行った。

## ◆ここすこグループホーム

報告担当者 管理者 高橋昭徳

### 【報告概要】

障害者総合支援法に基づく指定障害福祉サービス事業「外部サービス利用型共同生活援助事業」の適切な運営と、利用者が地域において共同して自立した日常生活及び社会生活を営む事ができるよう援助し、障害者の福祉の増進を図った。

コロナ禍で利用者様に行動制限等お願いする機会も多かったが、その中でも安心して生活を送ることが出来るよう支援した。

### 【報告項目】

#### ①ここすこグループホームの運営

「1番館（定員：男性10名）」「2番館（定員：5名）」「3番館（定員：男性7名）」

「5番館（定員：女性7名）令和4年5月から休止中」

- 1) 個別支援計画の作成及び提供
- 2) 関係機関との情報共有及び連携
- 3) 生活の質の向上及び健康の維持
- 4) 訓練等給付費請求・受領業務
- 5) 生活費等の出納管理
- 6) 訓練等給付の支給決定内容の管理
- 7) 外部サービス利用時の連絡調整
- 8) 年間利用者状況
- 9) 安定した収入の確保
- 10) 職員のサービスの質の向上を目指した事業所内研修の実施

### 【報告内容】

#### ①ここすこグループホームの運営

##### 1) 個別支援計画の作成及び提供

利用者の意向、適正、障害の特性を踏まえた個別支援計画を作成し提供するとともに、断続的な評価を実施し適切かつ効果的な援助を提供した。

実施月日	実施内容
適宜	アセスメント
適宜	個別支援計画の評価・個別支援計画の作成検討会議
適宜	個別支援計画の作成と同意・提供

##### 2) 関係機関との情報共有及び連携

利用者の意思及び人格を尊重し利用者の立場に立ったサービスの提供と、医療、関係機関、家族との連携、調整を行なった。

実施月日	実施内容
随時	通院同行、関係機関同行 家族と連絡、情報交換 サービス担当者会議・ケア会議の実施、参加

3) 生活の質の向上及び健康の維持

生活の質の向上と健康維持の為に援助を提供した。

利用者様全員に市町村が実施している健康診断を受けてもらい、個人の健康状態の把握に努めた。またかかりつけ医に相談しながら、必要な方に再検査実施している。

令和5年 7月 9日	日中想定通報・避難訓練
令和6年 3月 3日	夜間想定通報・避難訓練
随時	服薬管理・健康管理・生活相談・建物管理・設備管理・環境整備・大掃除支援等
令和5年 9月26日 令和5年10月17日 令和5年10月24日 ※2番館各自	健康診断の実施及びその同行、実施医療機関と連絡調整、かかりつけ医への報告、再検査実施 ①健診実施・同行（利用者4名・同行者2名） ②健診実施・同行（利用者4名・同行者2名） ③健診実施・同行（利用者3名・同行者2名） ④健診実施（利用者3名・単独）
令和5年 9月26日 令和6年 3月28日	保護者に向けて日常状況等を発信 ・グループホーム便り
令和5年 9月16日 令和6年 3月17日	行事 ①イオン下田外出（5名） ②デリバリー利用（12名）

4) 訓練等給付費請求・受領業務

サービス費等請求業務及びサービス費等代理受領業務

実施月日	行動計画
毎月	利用料金の徴収 国保連の請求及び代理受領 会計に関する諸記録の整備

5) 生活費等の出納管理

家賃、水光熱費、その他日常に要する費用に関する金銭管理を行った。

実施月日	実施内容
毎月2日	利用料金の徴収・返金 会計に関する諸記録の整備

6) 訓練等給付の支給決定内容の管理

実施月日	行動計画
随時	訓練給付サービス支給更新手続き 利用者負担上限額更新手続き

7) 外部サービス利用時の連絡調整

実施月日	行動計画
随時	個別支援計画に基づいた居宅介護支援事業所への依頼及び連絡調整 関係機関への情報提供等

8) 年間利用者状況

単位：人

月	1番館 定員10名(男)			2番館 定員5名(男女)			3番館 定員7名(男)			5番館 定員7名(女) 令和4年5月 から休止		
	入	退	利用者 実数	入	退	利用者 実数	入	退	利用者 実数	入	退	利用者 実数
延利用者数計	2	2	78	2	1	45	2	2	82	0	0	0
前年度	1	0	75	2	2	32	1	1	70			

9) 安定した収入の確保

広報活動：関係機関への広報活動を計画し、営業活動の実施。問い合わせの件数は増加している。

10) 職員のサービスの質の向上を目指した事業所内研修の実施

月	行動計画
令和5年 5月	自立支援医療制度と重度心身障害者
令和5年10月	睡眠について～セルフケア～

## ◆グループホーム青風荘

報告担当者 施設長 坂本美由紀

### 【報告概要】

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業「介護サービス包括型共同生活援助事業」の適切な運営と、利用者が地域において共同で自立した日常生活または社会生活を営む事ができるよう日常生活上において必要となる援助を行い、生活能力の低下防止と生活の質の向上・自立の促進を図った。

### 【報告項目】

- ①グループホーム青風荘の運営（定員20名）
  - 1) 日常生活上の支援全般、相談、連絡調整
  - 2) 個別支援計画の作成、ケアマネジメントの実施
  - 3) 関係機関との情報共有及び連携
  - 4) 健康管理
  - 5) 非常災害対策
  - 6) 利用者負担金及び生活費等の出納管理
  - 7) 介護給付費請求・受領業務
  - 8) 訓練等給付費の支給決定内容の管理
  - 9) 余暇活動支援
  - 10) 年間利用者状況

### 【報告内容】

#### ①グループホーム青風荘の運営

- 1) 日常生活上の支援全般、相談、連絡調整

1日を通して日常生活の質の向上・維持の為、利用者の意向を踏まえ、日常生活に必要なサービス（家事・相談・助言等）を24時間体制で提供した。

実施月日	実施内容
通年	夜間における排泄の介助や見守り 入浴・食事等の支援、洗濯及び掃除・買物等の身の回りや家事全般に関する相談や援助 公共機関利用の支援
随時	支援会議の実施

日中活動の場等関係機関との連絡・調整

実施月日	実施内容
毎週・月～金	通所リハビリテーション青陽館との情報共有、及びプログラム参加の支援
随時	ケア会議への参加

- 2) 個別支援計画の作成・ケアマネジメントの実施

利用者・家族の現状やニーズなどを把握するためにアセスメント及びモニタリングを実施し、個別支援計画を作成し、それに基づいて適切なサービスを提供した。

実施月日	実施内容
随時（6ヶ月以内）	個別支援計画書の作成及び更新 個別支援計画作成検討会議

3) 関係機関との情報共有及び連携

実施月日	実施内容
適宜	外来受診時における利用者の身体・精神状況の情報提供及び同行支援 家族との連絡・面談及び情報交換 ケア会議への参加

4) 健康管理

定期検診の実施

実施月日	実施内容
朝・夕(毎日)	対象者のバイタル測定
令和5年 5月	新型コロナワクチン予防接種(6回目17名、5回目2名)
令和5年11月、12月	新型コロナワクチン予防接種(7回目17名、6回目3名)
令和5年 9月	胸部X-P(一般者19名)
令和5年 9月	定期採血、検尿検査(一般セット19名)
令和6年 3月、4月	定期採血、検尿検査(一般セット20名)
令和5年11月	インフルエンザ予防接種(20名)
令和6年 3月、4月	頭部CT検査、心電図(20名)

5) 非常災害対策

実施月日	実施内容
令和5年 7月	避難誘導訓練(夜間想定)
令和6年 3月	避難誘導訓練(夜間想定)
毎月	消防用設備の自主点検
年度末	消防用設備等点検結果報告書・点検記録表・自主点検表の提出

6) 利用者負担金及び生活費等の金銭管理

利用者負担額等の請求・利用料等の受領業務

実施月日	実施内容
毎月	利用料の徴収・返金 会計に関する諸記録の整備

7) 介護給付費請求・受領業務

サービス費等請求業務及びサービス費等法定代理受領業務

実施月日	実施内容
毎月	国保連への請求・受領 会計に関する諸記録の整備

8) 訓練等給付費の支給決定内容の管理

月	行動計画
随時	訓練給付サービス支給量更新手続き 利用者負担上限額更新手続き

9) 余暇活動支援

レクリエーションの実施

利用者が高齢となってきた事、コロナウイルス感染対策のため外出を控え、荘内で季節に合わせた行事を中心に実施。

月	行動計画
令和5年 4月	春の散策&誕生会
5月	青風荘祭り
6月	外食レク「すたみな太郎」
7月	夏の風物詩を食べよう

8月	納涼会
9月	外出レク「ぶどう狩り」5名（残留者は寿司ランチ）
10月	誕生会
11月	ゲーム大会
12月	クリスマス&忘年会
令和6年 1月	新年会
2月	誕生会
3月	3月の節句を楽しむ

10) 年間利用者状況（利用者数は毎月末日現在）

	各月在所人数			入 所			退 所		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
延利用者数計	129	106	235	1	1	2	0	2	2
前年度	111	120	231						

利用者の高齢化に伴い、身体機能の低下等の理由から高齢施設への移行を進めている。

## ◆障害者生活訓練施設 青山荘

報告担当者 管理者 高橋昭徳

### 【報告概要】

障害者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、生活能力の維持・向上を目的に、食事や日常生活全般に関わる必要な生活訓練を行った。また、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供、地域連携に努めた。

### 【報告項目】

#### ①障害者生活訓練施設青山荘の運営

(通所型生活訓練 定員20名 宿泊型生活訓練 定員20名)

- 1) 個別支援計画の作成、モニタリングの実施
- 2) 社会生活力を高めるためのプログラムを実施
- 3) 運営に関する会議
- 4) 関係機関との情報共有、及び連携
- 5) 生活の質の向上・維持
- 6) 生活費等の金銭管理
- 7) 訓練等給付費の請求及び受領業務
- 8) 利用者の確保
- 9) 年間利用者状況

### 【報告内容】

#### ①障害者生活訓練施設 青山荘の運営

##### 1) 個別支援計画の作成、モニタリングの実施

利用者の置かれている環境及び日常生活全般の状況等を通じて、利用者及びその家族が希望する生活や課題を明らかにし、適切な支援内容の把握に基づき達成目標を設定し、サービス担当者会議を経て個別支援計画を作成した。個別支援計画書作成後、3ヶ月に1回以上定期的に個別支援計画実施状況の把握を行い必要に応じて個別支援計画の変更を行った。

実施月日	実施内容
随時	アセスメントの実施、個別支援計画の作成 モニタリングの実施（3ヶ月に1回以上）、個別支援計画の見直し

##### 2) 社会生活力を高めるためのプログラムを実施

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ◆ 健康管理      | ◆ 食生活     |
| ◆ セルフケア（保清） | ◆ 生活リズム   |
| ◆ 安全・危機管理   | ◆ 金銭管理    |
| ◆ すまい       | ◆ 掃除・整理   |
| ◆ 買い物       | ◆ 服装      |
| ◆ コミュニケーション | ◆ 外出・余暇支援 |
| ◆ 運動        | ◆ 病気の理解   |
| ◆ SST       |           |



実施月日	実施内容
毎月20日	翌月のプログラム予定表を作成
毎日	各利用者に合わせて集団・個別プログラムを実施
令和5年5月～12月 令和6年1月、3月	コロナウイルス感染状況を見ながら、特別プログラムを定期的に実施 特別調理・BBQ・三社大祭・お楽しみ会・ハロウィン クリスマス会・新年会・外出プログラム

3) 運営に関する会議

利用者に関する情報の共有、連絡事項、支援内容の見直しなどについて会議内で検討した。

実施月日	実施内容
毎月1回	利用者に関する情報・連絡事項・支援内容の見直し等について所内会議を行った

4) 関係機関との情報共有、及び連携

利用者の意志及び人格を尊重し利用者の立場に立ったサービスの提供、及び医療、関係機関、家族との密接な連携を図った。

実施月日	実施内容
適宜	必要に応じて関係機関・家族への情報提供（家族交流会）、ケア会議の招集、ケア会議への参加

5) 生活の質の向上・維持

実施月日	実施内容
毎月	苦情処理委員会の開催
令和5年 6月 令和6年 3月	避難訓練（消防計画・報告書の提出）
適宜	消防用設備の自主点検実施（専門業者に委託） 令和5年度分の消防用設備等点検結果報告書・点検記録表・自主点検票を令和6年4月に消防署へ提出

6) 生活費等の金銭管理

利用者・家族の希望に応じて生活費等の金銭管理等を行った。

実施月日	実施内容
適宜	新規利用者へ金銭管理方法を確認 事業所で通帳・印鑑・現金等を預かる際は、預かり証にサインをいただいてから預かった

7) 訓練等給付費の請求及び受領業務

毎月サービス利用費等を国保連へ請求する。また国保連よりサービス利用費の代理受領業務を行った。

実施月日	実施内容
毎月	サービス利用費等を国保連へ請求、代理受領書の発行

8) 利用者の確保

利用率を維持するために病院・関係機関への連絡調整を行った。

実施月日	実施内容
適宜	青南病院や相談支援事業所などの関係機関へ利用希望者や生活訓練が該当する利用者がないか適宜連絡調整を行った。

9) 年間利用者状況

「宿泊型」

単位：人

	年間訓練利用者数			新規訓練利用者数			訓練修了者数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
計	85	74	159	5	5	10	4	1	5

年間平均利用数	今年度	13.3
	前年度	13.0

「通所型」

単位：人

	年間訓練利用者数			新規訓練利用者			訓練終了者		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
計	79	74	153	5	5	10	3	2	5

年間平均利用数	今年度	12.8
	前年度	11.8

## ◆障害者就労移行支援事業

報告担当者 代表理事 松倉典子

### 【報告概要】

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業「就労移行支援事業」において、障害者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう、生活能力の維持・向上、また社会経済活動への参加のための就労訓練を行い、社会参加を促進すると共に障害者の自立した生活を助長するため障害者就労移行支援事業所の立ち上げに関する検討を行う予定としていたが、未検討となった。

### 【報告項目】

- ①障害者就労移行支援事業所の立ち上げ準備

### 【報告内容】

- ①障害者就労移行支援事業所の立ち上げ準備  
需要が現状では見込まれないため、事業立ち上げは未検討となった。

## ◆指定（介護予防）認知症対応型通所介護事業 結び家

報告担当者 管理者 金澤一美

### 【報告概要】

認知症の利用者を対象にした専門的なケアを提供し、利用者が可能な限り居宅で自立した日常生活を送ることができるよう、食事や入浴などの日常生活上の支援や、生活機能向上のための機能訓練や口腔機能向上サービスなどを日帰り提供した。また自宅にこもりがちな利用者の社会的孤立感の解消や心身機能の維持回復だけでなく、家族の介護の負担軽減などを目的とし事業に取り組んだ。更に若年性認知症者の支援にも力を入れ、若年性認知症サポートセンターゆえみとして、若年性認知症者及びその家族を対象としたサロン活動を実施し、当事者の仲間作りや悩み相談、そして家族の不安や悩み等の解消及び情報交換による心理的負担を軽減することを目的として事業を行った。

### 【報告項目】

- ①（介護予防）認知症対応型通所介護事業の運営
- ②若年性認知症サポートセンターゆえみ事業
- ③スタッフ教育

### 【報告内容】

- ①（介護予防）認知症対応型通所介護事業の運営

#### 1) 通所支援事業

(1) 日常生活とのつながりを意識した認知症者の自立につながるサービスを提供した。

サービス提供日：月曜日～金曜日（年末年始は除く）1日定員：12名

月	利用延べ数	平均利用者数 (1日/月)	利用率(月)	稼働率	登録者率
4月	183	9.2	76.25%	90.59%	84.17%
5月	212	9.2	76.81%	88.70%	86.59%
6月	211	9.6	79.92%	88.66%	90.15%
7月	217	10.3	86.11%	93.94%	91.67%
8月	212	9.6	80.30%	87.60%	91.67%
9月	199	9.5	78.97%	85.41%	92.46%
10月	215	9.8	81.44%	93.89%	86.74%
11月	206	9.4	78.03%	91.15%	85.61%
12月	205	9.8	81.35%	90.31%	90.08%
1月	205	9.8	81.35%	93.18%	87.30%
2月	207	9.9	82.14%	92.00%	89.29%
3月	202	9.6	80.16%	89.78%	89.29%
合計	延べ合計	平均利用者 延べ数(1日)	延べ利用率合計	稼働率	登録者率
	2474	9.63	80.24%	90.43%	88.75%

令和5年度2474名

前年度比586名増 登録者30名 新規13名 終結者18名（令和6年3月31日現在）

＜実績に対する分析内容＞

今年度は、5・6・8・9・11・12・2・3月に新規利用あり。利用目的は、家族の介護負担の軽減・清潔保持、活動性を持たせたい、認知症の進行に伴い他サービスから移行になったためとなっている。

介護度は要支援1、要介護1～3内訳として当財団居宅から4件、他事業所から9件となっている。新規利用者13名。新規利用に関しては、13名中6名の方が新規介護認定を受け、初めて介護サービスを利用されている。介護支援専門員からの相談にて利用、家族希望にて利用、認知症専門医の薦めにて利用。終結者は18名。身体状況の変化により、他サービス移行、在宅での生活が困難の為、他施設入所、治療目的の入院となっている。今年度も新型コロナウイルス感染症によるキャンセルが多少影響した。同居家族、本人が感染に伴いキャンセル。入居施設にて感染発生にてキャンセルがあった。その他の理由は、受診、体調不良によりキャンセル。営業活動を計画的に行うことで新規利用者が増加した。年間の1日の平均利用者が9.63名、平均利用率が80.24%と計画目標としていた数値に達成している。前年度比19.71%の増となっている。

利用相談は、結び家の特性を理解している現在利用されている利用者担当の介護支援専門員の件数もあったが、居宅へ顔の見える営業、FAX、電話にて空き情報を継続し、利用に繋がった。

2) 在宅生活を支えるための地域・家族交流

月	実施内容
4月～3月	八戸シニアはつらつポイント事業でのボランティア受入継続
9月18日	上長地区 敬老会
10月10日	職場訪問体験活動（三条中学校）1名
1月 6日	上長地区 新年会

3) 安定した収入の確保（営業関係）

広報活動：医療機関、居宅介護支援事業所等への広報活動を計画的に実施した。顔の見える営業活動の実施。利用相談は、営業活動もあり新規居宅支援事業所も増えた。また、結び家の特性を理解している現在利用中の担当介護支援専門員の相談が多かった。

＜営業活動＞

月	実施内容
4月～3月	毎月FAX、実績時に空き情報案内・ホームページにて空き情報案内・電話にて空き情報案内・サービス会議時の空き情報案内
4月	市内居宅へ営業 5件
5月	市内居宅へ営業 5件
10月	高齢支援センターへ営業 11件 電話・FAX

＜新規利用者獲得＞新規利用者 当財団居宅から4件、他事業所から7件 新規利用者13名

月	新規利用人数
5月	1名
6月	2名 営業活動に行った居宅から2名
8月	1名 営業活動に行った居宅から1名
9月	2名
11月	1名
12月	3名
2月	1名
3月	2名 営業活動に行った居宅から2名
合計	13名

※顔の見える営業活動が少しずつ成果をあげている。

4) 運営推進会議

地域との連携や運営の透明性を確保するため、利用者、利用者の家族、地域住民の代表者、市職員（高齢者支援センター等）、（介護予防）認知症対応型通所介護について知見を有する者等により構成される「運営推進会議」を設置し、おおむね6月に1回以上の頻度で開催し、活動状況を報告し、評価を受けるとともに、必要な要望・助言等を聴取する機会を設け、その内容について記録し、公表等が義務づけられている。会議が地域の皆様との繋がりになれるよう、地域の方々・家族、専門職等との交流の機会を設けることで、情報交換の場として活用する。

月	実施内容	参加人数
令和5年 6月 8日	①令和4年度下半期事業報告 ②活動をスライドショーで説明 各委員の方へ資料を配布し意見を求めている。	11名
令和5年12月 7日	①R5年度上半期事業報告 ②活動をスライドショーで説明 各委員の方へ資料を配布し意見を求めている。	8名

5) 避難訓練の実施

(1) 日中火災想定避難訓練2回実施

業務継続計画（BPC）机上訓練（感染症・自然災害）1回実施

月	実施内容	参加人数
令和5年10月19日	日中火災想定避難訓練	利用者 7名 職員 6名
令和6年 2月15日	業務継続計画（BPC） 机上訓練（感染症・自然災害）	利用者 0名 職員 6名
令和6年 3月28日	日中火災想定避難訓練	利用者 6名 職員 6名

(2) 相談支援事業

認知症高齢者だけでなく、若年性認知症及び認知症を発症した障害者の相談にも積極的に応じ、適したサービスを利用できるよう情報の提供を行った。他事業所と連携を図り、認知症者本人の豊かな地域生活につながるよう支援を実施した。

相談内容	利用相談	家族相談	利用中止相談	合計
年間件数	26件	0件	0件	26件

※介護支援専門員からの相談件数は多いが、相談だけで他サービスや他施設入所等で実際に利用に繋がった方は13名。

②若年性認知症サポートセンターゆえみ事業

若年性認知症者及びその家族を対象としてサロン活動（すこやかサロン結喜）を月1回実施し、本人や家族の交流の場として、仲間作りや家族の精神的負担の軽減を図った。冬期間は参加されていなかったが、遠方の青森市から若年認知症者と家族が参加されている。

家族間でのアドバイス、介護経験等を通じての助言や提案等もあり、学ぶことも多く、家族の方からは毎回のサロンが楽しいとの話が聞かれていた。

月	実施内容	参加人数			
		当事者	家族	見学者	合計
令和5年 4月 8日 (第2土曜日)	当事者：昼食作り・テレビ鑑賞・談話・缶バッジ作り 家 族：談話・作品制作（ヒバ袋/レジン）	3名	7名	0名	10名
5月13日 (第2土曜日)	当事者：昼食作り・テレビ鑑賞・談話・ドライブ（蕪島） 家 族：談話・作品制作（ヒバ袋/レジン）	3名	8名	2名	13名
6月10日 (第2土曜日)	当事者：昼食作り・テレビ鑑賞・談話・ドライブ（南郷） 家 族：談話・作品制作（ヒバ袋/レジン）	3名	6名	0名	9名
7月 8日 (第2土曜日)	当事者：昼食作り・談話・テレビ鑑賞・おやつ作り 家 族：談話・作品制作（ヒバ袋/レジン）	3名	8名	5名	16名
8月 5日 (第1土曜日)	当事者：昼食作り・談話・テレビ鑑賞 家 族：談話・作品制作（ヒバ袋/レジン）	2名	8名	0名	10名
9月 9日 (第2土曜日)	当事者：昼食作り・談話・テレビ鑑賞・おやつ作り 家 族：談話・作品制作（ヒバ袋/レジン）	3名	5名	0名	8名
10月14日 (第2土曜日)	当事者：道の駅しちのへ・買い物 家 族：道の駅しちのへ・買い物	3名	7名	0名	10名
11月11日 (第2土曜日)	当事者：昼食作り・テレビ鑑賞・談話・ ドライブ（更上閣 菊花展見学） 家 族：談話・作品制作（ヒバ袋/レジン）	4名	11名	1名	16名
12月 9日 (第2土曜日)	当事者：昼食作り・談話・テレビ鑑賞・ 散歩（アーティスト村・サンデー） 家 族：談話・作品制作（ヒバ袋/レジン）	2名	6名	0名	8名
令和6年 1月13日 (第2土曜日)	当事者：昼食作り・談話・テレビ鑑賞 家 族：談話・作品制作（ヒバ袋/レジン）	2名	3名	0名	5名
2月10日 (第2土曜日)	当事者：昼食作り・談話・テレビ鑑賞 家 族：談話・作品制作（ヒバ袋/レジン）	3名	7名	3名	13名
3月19日 (第2土曜日)	当事者：昼食作り・談話・テレビ鑑賞 家 族：談話・作品制作（ヒバ袋/レジン）	3名	6名	0名	9名

・見学者

青森県庁（高齢福祉保健課）職員2名（令和5年5月13日）

青森県庁（高齢福祉保健課）職員1名・八戸短期大学4名（令和5年7月8日）

青森県立保健大学教授1名（令和5年11月11日・令和6年2月10日）

③スタッフ教育

スタッフの質の向上を図る事で、サービスの質の向上につなげる。伝達能力を身につけられるよう各自担当制にして勉強会を開催した。新型コロナウイルス感染症予防の為オンライン研修参加含む。

月	形態	実施内容
令和5年 4月11日	勉強会	認知症及びひ認知症について
4月12日	勉強会	介護予防及要介護進行予防について
7月 3日	法人内勉強会	感染症・食中毒の予防について

公益事業 1 障害者・高齢者・認知症者が安心して暮らさせる地域づくり事業  
 (1) 障害者・高齢者・認知症者を支援する事業

7月21日	法人内研修	接遇・倫理及び法令遵守について MS北東北株式会社 永澤氏五十嵐氏
8月 3日	勉強会	リスクマネジメント（事故対策）について
8月22日	外部研修	介護ハラスメントの基本と考え方について（豊間根） 社会福祉事務所サンパチ 小泉紀之氏
8月25日	法人内研修	精神疾患の理解と「依存」という心理現象 訪問看護・介護ステーション種市和人氏
9月 4日	法人内勉強会	虐待防止・身体拘束について 緊急時の対応及び防災対策について
10月13日	法人内研修	健康運動を始めませんか 青森県立中央病院 西村氏・堺氏
令和6年 1月15日	法人内勉強会	感染症について
2月 8日	勉強会	プライバシー保護について
2月15日	勉強会	業務継続計画（BPC）自然災害・感染について
2月16日	法人内研修	福祉サービスにおける苦情とその対応 早稲田大学人間科学学術 岩崎香氏



## ◆ケアプランセンター まゆすい

報告担当者 堀慕子

### 【事業報告】

介護を必要とする方が、居宅で適切にサービスを利用できるように介護支援専門員が心身の状況や生活環境、本人及び家族の希望等に沿ってケアプランを作成し様々な介護サービス事業所との連絡・調整を行い、適切なサービスが提供されるよう計画することで、居宅で自立した生活が送れるよう支援することを目的として事業を行った。

### 【報告項目】

- ①居宅介護支援事業所の運営
- ②サービスマネジメントシステムの確立
- ③介護支援専門員としての人材育成

### 【報告内容】

- ①居宅介護支援事業所の運営
  - 1) 介護（予防）給付支援サービス

#### (1) 利用実績の管理

ケアプランの作成、介護サービス提供事業所等との連絡調整及びサービス等の利用状況の検証を行い半年ごとに計画見直しを行った。

<月別請求件数>

介護度 月	要支援	要介護 1・2	要介護 3・4・5	合計	新規	終了
4月	34	68	26	128	0	0
5月	32	67	31	130	1	0
6月	30	70	33	133	2	2
7月	30	70	35	135	1	1
8月	30	69	34	133	1	2
9月	29	65	35	129	0	0
10月	29	67	36	132	3	0
11月	29	72	34	135	6	4
12月	26	78	35	139	6	2
1月	25	78	34	137	2	2
2月	26	75	40	141	4	2
3月	29	73	37	139	6	6
合計	349	852	410	1611	32	21

- (2) 利用者に関する支援内容を適切に記録した。

(3) 認定調査委託件数

認定調査員4名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3
										合計	35

2) 運営上の透明性の確保と継続性

- (1) 2023年度介護サービス情報報告システム登録し情報発信を行った。
- (2) 在宅介護支援センターや関係機関と連携し新規利用者の獲得に繋げた。

②サービスマネジメントシステムの確立

1) 利用者・家族の在宅生活の支援

- (1) 利用者が自立した生活を営むことが出来るよう十分な聞き取りを行い利用者のニーズを把握し支援を行った。
- (2) 入院・入所時は情報提供し、退院・退所時は情報を得るよう医療機関・福祉施設等との連携を行うことで利用者の支援を行った。
- (3) 週1回居宅会議を行い利用者の情報を共有し、担当ケアマネが不在時でも対応を行った。

③介護支援専門員としての人材育成

- 1) 介護支援専門員としての資質向上、専門知識、技術向上を図ることでマネジメントの質の向上を図るために、色々な外部研修に参加している。

月	形態	実施内容
令和5年 7月	外部研修	地域ケア会議（事例提供）
//	外部研修	認知症セミナー
//	法人研修	『食中毒と感染対策について』
令和5年 8月	外部研修	地域ケア会議（事例提供）
令和5年 9月	法人研修	『虐待防止について』
//	外部研修	地域ケア会議（事例提供）
令和5年10月	外部研修	Aブロック研修会 『介護予防ケアプラン作成勉強会』
令和5年11月 ～12月	外部研修	主任介護支援専門員研修
令和5年12月	法人研修	財団事例検討会 『家族支援の必要性 個々に対するアプローチを考える』
//	法人研修	財団啓発講演会 『心のつながりを求めて～いのちの電話から見えてくるもの～』
令和6年 1月	法人研修	『身寄りのない高齢者が安心して暮らすために』
令和6年 2月	外部研修	地域ケア会議（事例提供）
令和6年 3月	外部研修	地域ケア会議圏域会議
//	外部研修	三好春樹講演会

## ◆青森県若年性認知症総合支援センター

報告担当者 山口亜矢子

### 【報告概要】

若年性認知症に対する認識が不足し、診断される前に症状が進行し社会生活が事実上困難となるケースや、本人やその家族、企業及び医療機関が若年性認知症を知っていても、活用が可能な福祉や雇用の施策があまり知られていないことなどから、経済的な面も含めて本人とその家族の生活が困難になりやすいことが指摘されている。これらの問題を解消し、若年性認知症の一人一人ひとりが、その状態に応じた適切な支援を受けられるようにすることを目的として運営した。

### 【報告項目】

①若年性認知症総合支援センター事業の運営

### 【報告内容】

①若年性認知症総合支援センター事業の運営

#### 1) 相談支援事業

若年性認知症の多岐にわたる相談のワンストップ窓口の開設し、訪問、来所相談、電話相談、相談会等にて以下の相談に応じる。

- ・福祉サービスの利用援助に関すること
- ・社会資源を活用するための支援に関すること
- ・社会生活力を高めるための支援に関すること
- ・権利擁護のために必要な援助に関すること

※必要に応じて同行や関係機関との連絡調整を実施。

	通常相談	継続相談	その他	単純問合せ	合計
年間相談件数	164件	2件	3件	2件	171件

(備考) 通常相談：64歳以下の相談

継続相談：初回相談64歳以下で現65歳以上の相談

その他：18歳未満65歳以上の相談

#### <出張相談会>

月	行動報告
9月16日	令和5年度 若年性認知症相談会 in 青森市実施 (青森市)
9月30日	令和5年度 若年性認知症相談会 in 五所川原市実施 (平川市)

#### 2) 若年性認知症自立支援ネットワーク会議の実施

発症初期から高齢期まで本人の状態にあわせた適切な支援が図られるよう、医療・介護・福祉・雇用の関係者が連携する若年性認知症自立支援ネットワークを構築するための会議を今年度は対面で開催した。報告では令和4年度の実績報告と令和5年度の計画について報告している。情報提供として青森県健康福祉部高齢福祉保険課音喜多氏より青森県若年性認知症施策について説明し、松倉と音喜多氏より2022年度若年性認知症実態把握事業について調査結果と課題について報告している。協議では調査結果をもとに活用・連携について事例を紹介し意見を収集している。

協議の結果、①企業との連携について、②障害から介護への移行連携についてと2事例をあげて報告している。連携では企業向けの研修の実施をしたことで好評を得たことや企業より相談を受ける経営指導員対象に研修会を実施する案や、若年性認知症を対象とした企業向けの助成金事業があること、週10時間からでも雇用実績にカウントできることなど各方面からも情報提供や提案を聞くことができた。引

引き続き各団体と若年性認知症と当センターに関する周知について協力しながら進めていくことを確認している。

実施月日	実施内容	構成団体（12団体）
令和5年 8月29日	令和5年度青森県若年性認知症自立支援ネットワーク会議実施 ・報告 令和4年度実績報告 令和5年度事業計画 ・情報提供 青森県若年性認知症施策について 青森県若年性認知症総合支援センター活動報告について ・協議内容 青森県若年性認知症総合支援センターの活用・連携について ・その他	≪学識経験者≫ 青森県立保健大学 教授 ≪医療≫ 青森県医師会 認知症疾患医療センター ≪介護福祉≫ 青森県介護支援専門員協会 青森県障害者就業・生活支援センター連絡協議会 ≪当事者関係者≫ 認知症の人と家族の会青森県支部 ≪労働施策≫ 青森労働局職業安定部職業対策課 青森障害者職業センター 青森産業保健総合支援センター ≪経済団体≫ 青森県商工会議所連合会 青森県商工会連合会 ≪市町村≫ 青森県障害福祉課

3) 若年性認知症自立支援ネットワーク研修

若年性認知症の人に対する日常生活上の支援、就労上の支援等のために必要な知識・技術を習得するための研修をZoomと会場のハイブリッド形式にて実施した。研修当日はZoom参加が37名、会場参加が13名となっている。

若年性認知症総合支援センターの役割として、コーディネーターの役割や各連携機関の説明、事例の紹介を資料に沿って説明している。田中様の講義ではヤングケアラーの実態や関わりについてケアラーワークスの活動の紹介をされている。その後の田中様と金子様の対談では金子様のお父様が病気になったときの心境や受け止めた時の気持ちについて丁寧に田中様が聞き取りヤングケアラーとしての本音を聞かせて頂くことができた。参加者からも好評の感想が多く、来場した参加者からは「生の声を聴くことができてよかった。」とも感想が寄せられた。

実施月日	実施内容
令和5年 11月25日	令和5年度青森県若年性認知症自立支援ネットワーク研修実施 ・青森県若年性認知症総合支援センターの役割について ・講義「ヤングケアラーを知る ～若年性認知症の親と向き合う子どもたち～」 ・対談「～若年性認知症の親と向き合って～」 講師：田中悠美子氏（一般社団法人 ケアラーワークス） 金子 萌 氏（株式会社 想ひ人）

＜若年性認知症自立支援ネットワーク研修 アンケート結果＞

・アンケート回答数：Zoom 32名 会場 13名

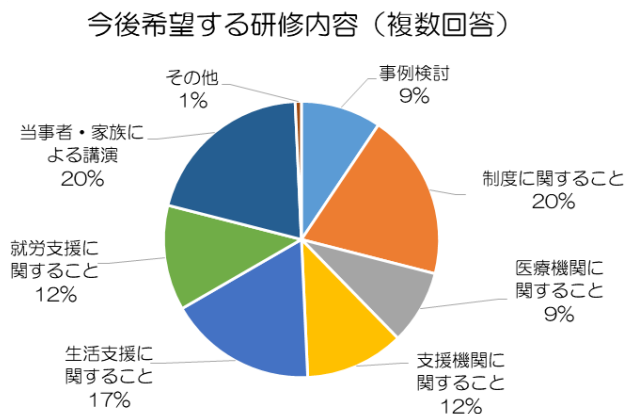
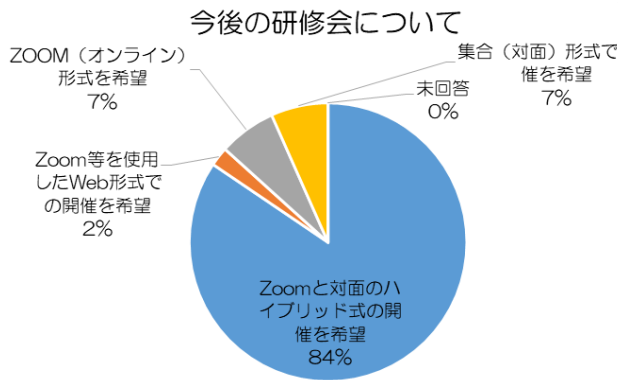
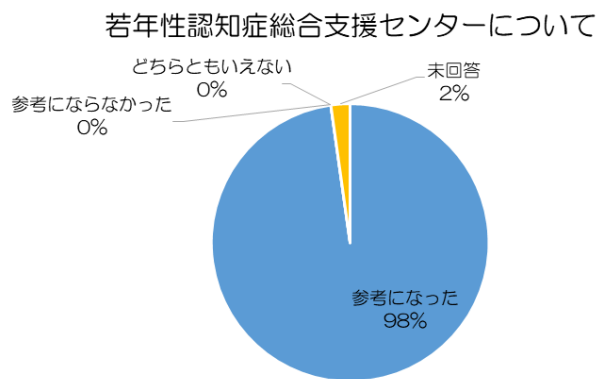
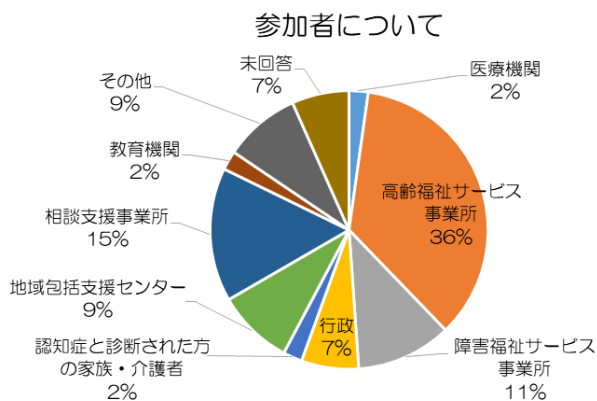
・参加者について

Zoom

高齢福祉従事者	15名	障害福祉従事者	4名
地域包括支援センター	4名	相談支援事業所	4名
行政	1名	教育機関	1名
その他	3名		

会場

医療従事者	1名	高齢福祉従事者	1名
障害福祉従事者	1名	行政	2名
相談支援事業所	3名	認知症の方の家族・介護者	1名
その他	1名	未回答	3名



## ◆認知症事例検討会

報告担当者 高橋広文

### 【報告概要】

認知症者になってもその人らしく生活していくために、どのような支援が必要か、またどのような体制が必要か、福祉専門職事例をもとに検証し、認知症者の処遇の向上を目指すことを計画。

### 【報告項目】

- ①地域で認知症に携わっている専門職員等と、事例検討会開催を計画

### 【報告内容】

- ①地域で認知症に携わっている専門職員等と事例検討会開催

今回は4年ぶりに対面で開催。財団が障害部門と高齢部門（若年性認知症を含む）のある法人であるため、双方の意見を交換できるテーマを設定し事例検討を行っている。今回は介護支援専門員の他に特定相談支援事業所の相談支援専門員にも開催案内を送付している。申し込み方法もFAXとオンライン（Googleフォーム）を活用している。事例検討では、障害支援者と高齢支援者を組み合わせてグループ分けした事で、「若年性認知症の方と接する機会がなく、検討が難しかったが大変勉強になった」との意見が聞かれた。良かった点として、「勉強になった」「家族の家庭内での関係性からも、どのような課題があるのか考える事例だった。」

反省点として「他のグループではどのような意見が出たか知りたかった」との声もあったため、全グループからの発表を行うか、検討した資料を掲示して見て回る時間を設ける必要があったと感じた。今回の良かった点、反省点を活かしてより良い形を作ることができればと思う。

実施月日	計画内容	参加施設	参加者数
令和5年 12月 8日  18:00 ～19:30	家族支援の必要性 ～個々に対するアプローチを考える～  事例提供者： 公益財団法人シルバーリハビリテーション協会 下長・上長地区高齢者支援センター はくじゅ 佐々木様・松田様	居宅介護支援事業所、 高齢者支援センター、 特定相談支援事業所	23名

## ◆メンタルヘルスに関する事業

報告担当者 松倉典子

## 【報告概要】

メンタルヘルスに関する事業を通して疾病発症を未然に防ぐことで、精神疾患発症の予防・早期発見・再発防止・社会復帰等の支援をする事で、心の健康を保ち、健全な地域づくりを行う事を目的として事業を行った。

## 【報告項目】

- ①ストレスチェックの実施
- ②メンタルヘルスに関する研修会の開催及び講師の派遣

## 【報告内容】

## ①ストレスチェックの実施

労働安全法に基づき、ストレスチェックの実施対象となる者並びに企業及び法人等からの依頼により、ストレスチェックを実施した。

実施日	委託者	実施内容
令和5年9月	医療法人青仁会	・実施及び集団分析 受検者：169名
令和6年3月	社会福祉法人昭壽会	・ストレスチェック実施事前研修 2月15日 15:00~15:30 ・実施及び集団分析 受検者：51名 面接指導実施：0名

## ②メンタルヘルスに関する研修会の開催及び講師の派遣

講師の派遣依頼無し。

## ◆障害者の作品展示

報告担当者 代表理事 松倉典子

### 【報告概要】

障害者の創作した美術作品を公開する場を設けた。また、その美術作品を通して地域住民やその他の方に対し展示作品の説明・紹介を行い、障害への理解・認識を促進するための事業を行った。

### 【報告項目】

- ①障害者の作品展示
- ②作品見学会の実施
- ③広報

### 【報告内容】

#### ①障害者の作品展示

- 1) 絵画、陶芸作品等、常設展示を行った。

#### ②作品見学会の実施

- 1) 法人で行った各研修会を利用し、来場者に対して作品紹介・説明等を行った。
- 2) 事前予約を受付け、見学会を実施

令和5年9月20日に新郷村厚生課より申し込みがあり10名（民生児童委員等）が見学をした。昨年同様、今年度学生による見学はなかった。

#### ③広報

- 1) 積極的な広報活動は実施できなかった。



## ◆障害者・高齢者・認知症者の福祉に関する 研修会、講演会、イベントの開催

報告担当者 代表理事 松倉典子

**【報告概要】**

障害者や高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、地域住民等の理解や協力を促進するためにイベントや講演会等を実施した。

**【報告項目】**

- ①障害者、高齢者、認知症者の地域生活支援に関する研修会を開催し、地域住民、公的機関等との連携、協働による地域福祉のネットワークづくりの推進
- ②高齢者・障害者を支える家族、専門職員、一般の方を対象とした講習会等の実施
- ③障害者、高齢者、認知症者への偏見を除去し、地域住民との交流を図るためのイベント等を開催

**【報告内容】**

①～③共通

障害者、高齢者、認知症者の地域生活支援に関する研修会及び障害者、高齢者を支える家族、専門職員、一般の方を対象とした講演会の実施並びに障害者、高齢者、認知症者への偏見除去・地域交流を図るためのイベント等を開催した。

1) 障害者、高齢者、認知症者を支援するための講座の実施

- ・認知症サポーター養成講座の実施

地域住民等への認知症サポーター養成講座を実施

実施日	講演内容	対象者
令和5年 7月31日	認知症サポーター養成講座	青森県立八戸西高校 23名
令和6年 2月 9日	認知症サポーター養成講座	鷗盟大学 40名

- ・障害や疾病に対する理解促進、障害者の継続した地域生活の為に連携等を目的とした各研修会の実施

実施日	講演内容	対象者
令和6年 2月17日	障害者サポーター養成講座 学校法人光星学院 八戸学院大学短期大学部構内で実施	八戸学院短期大学部 介護福祉学科 1年生 17名 八戸学院大学 人間健康学科 2年生 5名 看護学科 2年生 1名 地域経営学科 教授 1名

2) 講演会の開催

実施月日	実施内容	参加者
令和5年 12月16日	テーマ「心のつながりを求めて ～いのちの電話からみえてくるもの～」 講師 認定NPO法人あおもりのちの電話 理事長 藤林 正雄 氏 ・来場とZoomによるハイブリッド形式で実施	来場 6名 Zoom参加 17団体
令和6年 1月27日	テーマ「身寄りのいない高齢者が安心して暮らすために」 講師 合同会社エコノモラル・社会福祉士事務所サンパチ 管理者 小泉 紀之 氏 ・来場とZoomによるハイブリッド形式で実施	来場 14名 Zoom参加 39団体

3) イベントの開催

実施月日	実施内容	参加者
令和5年 12月23日	◆すこやか冬まつり 田面木公民館を利用した冬まつりの実施 当法人の活動紹介 地域住民、障害者、高齢者の交流の場の提供 障害者ボランティアによる運営補助	一般参加 100名 学生ボランティア 8名 元田面木婦人会 4名 障害者ボランティア 5名
令和6年 3月16日	◆かふえだいたい 認知症者、障害者、地域住民、子ども達など、 みんなの居場所としてカフェを開催 ランチ カレーライス 喫茶 珈琲セット/ジュースセット を販売	地域住民 13名 中学生以下 21名 ボランティア 11名 (認知症者、障害者、子ども含む)

4) 八戸市主催「認知症フォーラム」への参加

実施月日	実施内容
令和5年 10月 8日	八戸市委託事業 受託先・認知症の人と家族の会 フォーラム企画等に参加 当法人参加人数3名

## ◆介護予防

報告担当者 代表理事 松倉典子

### 【報告概要】

地域の方一人ひとりが健康維持について高い意識をもち、仲間づくりをすることで、高齢者の閉じこもりを予防し、要介護状態になることを予防することを目的として、認知症サポーター養成講座において予防に関する講義を一部取り込み実施した。

### 【報告項目】

- ①地域住民を対象に介護予防に繋がるプログラムを実施

### 【報告内容】

- ①地域住民を対象に介護予防に繋がるプログラムを実施

- 1) 認知症サポーター養成講座内で実施

実施日、対象者等については「障害者・高齢者・認知症者の福祉に関する研修会、講演会、イベントの開催」の報告を参照

## ◆成年後見制度の利用に関する支援

報告担当者 代表理事 松倉典子

### 【報告概要】

個人の尊厳を重視する権利擁護活動において、権利擁護の推進を図ることを目的し、障害者や高齢者、認知症者で判断能力が不十分な方が住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らせるように権利擁護事業や成年後見制度の利用に関する支援を行った。

### 【報告項目】

- ①法人スタッフの権利擁護活動を支援
- ②成年後見制度利用相談支援
- ③権利擁護センターゆっばるの開設

### 【報告内容】

#### ①法人スタッフの権利擁護活動を支援

「ぱーとなー青森」に所属する法人スタッフ1名の後見活動を支援した。

対象者	実施内容	登記	担当
知的障害者 女性 60歳代	後見事務	平成24年12月14日	松倉

成年後見人養成研修（社会福祉士会主催3年間）の受講が終了し、新たに1名が後見人としての活動が可能となった。

#### ②成年後見制度利用相談支援

法人全体で成年後見制度利用に関する相談は1件（後見申し立て支援）だった。

#### ③権利擁護センターゆっばるの開設

令和5年12月1日より権利擁護センターゆっばるを開設し、日常的金銭管理支援を開始。後見制度利用支援及び法人後見についての相談等はなかった。

八戸市障害福祉課、高齢福祉課へ事業説明を実施。また八戸市社会福祉協議会、市内の高齢者支援センター等へのパンフレットを配布し、広報活動を行った。

対象者	実施内容	人数
精神障害者	日常的金銭管理支援	1名
認知症高齢者	日常的金銭管理支援	1名

## ◆もの忘れ検診機器の貸出

報告担当者 松倉典子

### 【報告概要】

認知症の早期発見早期受診を目的として、もの忘れ検診機器の貸し出しを行うことで、もの忘れ検診の普及を目指した。

### 【報告項目】

- ①タッチパネル式もの忘れ検診機器の貸出
- ②もの忘れ検診機器の点検

### 【報告内容】

- ①タッチパネル式の物忘れ検診機器を市町村等へ貸出  
 今年度の貸し出しはなかった。  
 貸出台数：0台（前年度実績0台）

- ②タッチパネル検診機器の点検

月	実施内容
随時	タッチパネル機器とプリンターの点検

## ◆認知症徘徊SOS模擬訓練

報告担当者 佐々木瞳

### 【報告概要】

田面木地区社会福祉協議会と協力し、例年認知症徘徊模擬訓練を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、昨年に引き続き訓練実施は見送りとなっている。

しかし、平成20年より田面木地区に根差した活動として実施してきており、この活動が途切れる事のないよう地域の各団体、近隣福祉施設、行政とのつながりを継続していけるよう調整を行った。

### 【報告項目】

- ①田面木地区で認知症徘徊SOS模擬訓練の実施（中止）
- ②田面木地区以外の地区におけるネットワークの事業紹介と啓発活動並びに立ち上げ協力、組織化への支援を実施（中止）

### 【報告内容】

#### ①田面木地区で認知症徘徊SOS模擬訓練の実施（中止）

今年度の5月から新型コロナウイルスが5類に移行となったが、8月中旬以降、全国的に感染者が増加となり、八戸市内の感染者も増加した。参加者や協力して頂いている医療、福祉施設関係者の健康を考慮すると、感染リスクは避けられないとし、主催者と開催について検討、総合的に判断し中止となっている。

##### 1) 中止についての案内を関係各所に配布

徘徊模擬訓練を来年度以降も継続した取り組みとして関係者に認識して頂くよう、関係各所へ中止のお知らせを配布した。

実施日	実施内容	備考
令和5年 9月 2日	田面木地区社会福祉協議会会長と今年度の開催について検討し、中止の判断となる。関係機関へ中止の案内を配布する。	—
9月 2日	中止のお知らせ文書作成、配布先の確認	—
9月22日	文書印刷、配布準備 文書発送（26箇所）	—

##### 2) 認知症サポーター養成講座の実施（中止）

教育施設におけるクラスターや地域の感染状況を考慮し、今年度の養成講座の開催は中止としている。

- ②田面木地区以外の地区におけるネットワークの事業紹介と啓発活動並びに立ち上げ協力、組織化への支援を実施支援予定としていたが、依頼がなかったため実施しなかった。

## ◆自動販売機等の設置及び不動産貸付事業 及びレストランサービス事業

報告担当者 代表理事 松倉典子

【報告概要】

収益事業で収入を得ることにより、その収益の50パーセントを公益事業へのみなし寄付することで、公益目的事業の運営資金とするために事業を行った。

【報告項目】

- ①自動販売機収入
- ②公衆電話収入
- ③不動産貸付事業収入
- ④レストランサービス事業収入

【報告内容】

①自動販売機収入

設置場所	実施内容
八戸市大字田面木字赤坂16-8 地域生活支援センター青明舎前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売機周辺の清掃</li> <li>・入金確認</li> </ul>

②公衆電話収入

設置場所	実施内容
八戸市大字田面木字松長根5-4 グループホーム「5番館」内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集金</li> <li>・入金</li> <li>・電話機のメンテナンス</li> </ul>
八戸市大字田面木字赤坂35-9 グループホーム「青風荘」内	
八戸市大字田面木字赤坂35-35 障害者生活訓練施設「青山荘」内	

③不動産貸付事業収入

1) 土地の賃貸借による収入

設置場所	実施内容
八戸市大字田面木字赤坂22-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約内容の確認打合せ</li> <li>・入金確認</li> <li>・支払確認</li> </ul>
八戸市大字田面木字赤坂22-2	
八戸市大字田面木字赤坂24-1	
八戸市大字田面木字赤坂24-2	
八戸市大字田面木字赤坂24-4	
八戸市大字田面木字赤坂24-5	

(1) 自動販売機等の設置及び不動産貸付事業及びレストランサービス事業

④レストランサービス事業収入

提供事業所	実施内容
グループホーム 青風荘	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 食数確認 (毎週金曜日)</li> <li>• 請求書発行 (毎月5日)</li> <li>• 入金確認 (毎月10日)</li> <li>• 食材の買出し</li> </ul>
障害者生活訓練施設 青山荘	
グループホーム 南寿の里	
ここすこグループホーム	
精神障害者通所リハビリテーション センター青陽館	